



令和2年度 保護者・生徒・地域の皆さんへ

長野高等学校 学校長だより

(「学校長だより」はホームページにも掲載しています。)

令和2年
No 7

8月27日(木)

長野高校中庭産トマト(園芸班)、いただきました。

7月7日(火)の昼休みに園芸班の3年雪入くんが「校長先生、初物が採れたのでどうぞ食べてください。」と校長室にミニトマト持参で来てくれました。中庭の昇降口に近い場所では園芸班が毎年様々な花を育てています。肥料を施して土地改良をしたうえ、昨年の秋に植えたパンジーなどです。今年は「日当たりがいい場所なのに空いていたので、水やりの手間があまりかからないトマトを植えてみました。」とのこと。7月31日(金)にも「また採れました!」とビニール袋の中にたくさんのトマトを入れて持ってきてくれました(下写真)。何人かの先生達でおいしくいただきました。「中庭のミニトマト、食べたい人は、ちゃんと洗って食べてもらってもいいです。」とのことだそうです。



園芸班 雪入くん



北校舎南側(トマト栽培場所)

ちなみに、中庭では園芸班の他、定時制の生徒の皆さんが「総合的な探究の時間」の一環として、園芸の専門家から指導を受けて長野在来種のエダマメ(ひざ栗毛)やサトイモ(善光寺)を栽培しています。ご承知ください。

夏休み前、学年集会での校長からの話(概要)

① 3学年「人からの評価」

早速皆さんに三択の質問をします。「待ち合わせをしても決して遅刻をしない、時間を厳守する男子学生がいます。」彼は次のどれにあてはまると考える人が多いでしょうか?

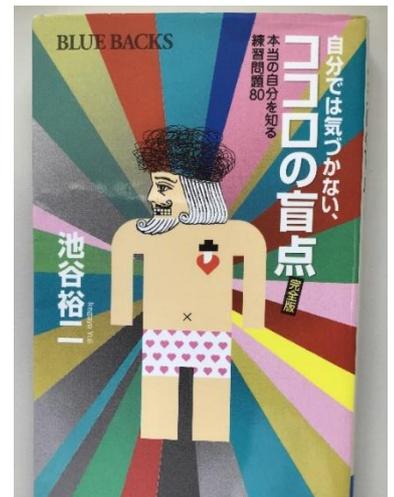
- ① 授業の出席率が高く、部屋をきれいに掃除している。
- ② 授業をさぼりがちで、部屋は散らかっている。
- ③ どちらでもない。

皆さんの個人的な印象でいいので手を挙げてもらいます。(手を挙げてもらった結果は、①の人はかなり多い、②の人は一人、③の人も若干名いました。)

この質問は、今年の『先輩からのアドバイス』の巻頭言でも紹介した脳科学者の池谷裕二氏の『ココロの盲点』の中に出てくる質問です。一番多いのは①です。池谷氏によれば脳は「他人の行動や言動を、その人の性格に由来すると捉える傾向があります。」と述べています。実際に皆さんに聞いても大多数の人達が①と答え、時間厳守=出席率高く、部屋はきれい、と考えました。

しかし、多数の学生への調査の結果、時間を厳守するかどうかと、授業の出席率や部屋のきれいさ、には相関がないことがわかっているんだそうです。つまり、事実としては、③が正しいのです。

でも、私たちの脳の判断癖は強烈で、明らかに外的な影響を受けての行動でも、「あの人はそういう人だから」と、性格に結び付けて考える傾向があります。つまり、皆さんがこれから社会に出たとき、人か



らの評価を受ける場面、もっと身近で言えば、面接する時の面接官からも同じ判断をされるはずです。皆さんの中で医学部や看護系の受験で面接がある人たちは、面接のときに「表情・話し方・立ち振る舞い等」によって評価されることに対して、準備しておく必要がありますね。

② 2学年「この夏休みに探究を深めて」

2月に皆さんはNGPで中間発表をしてもらいました。外部の人に見てもらい、私も全部見たわけではありませんが、それなりにしっかりしたものでした。しかし、「対象」つまり「テーマ」への掘り下げやオリジナリティーはまだまだ足りない。「探究」とは呼べないレベル、調べ学習、という領域。特に今年は個人研究もできるようになっています。

私の卒業論文を持ってきました。テーマが「サロマ湖の地形形成過程について」という自然地理学、地形学という分野です。指導教官が、サロマ湖近くの「常呂川水害地形分類図」を北海道開発局に委嘱されて作成していた時に、私もお手伝いさせてもらった関係で、北海道のサロマ湖に大学3年生から4年生にかけて何度も調査に出かけて、地質の資料の収集や地形の計測、地盤の調査をして、図版や資料としてまとめました。大変でしたが、この研究（とまでは呼べないですが）はとても楽しかったです。

皆さんは去年の経験を踏まえて今年の探究活動があるわけで、昨年よりさらにレベルアップしていなければいけません。ある程度の時間を集中的に費やせるのは夏休みぐらいしかないはずで、実際の、担当の先生方からは、先行研究をしっかり調べることの宿題が出ていますね。一つのことについて集中して探究することは、とても楽しい事ですので、その経験や内容について、自信をもって語れるようになってほしいな、と思ってお話をしました。8月末の2年生のフィールドワークで事業所等に伺う（オンライン）際に「さすが長野高校生ですね」と言ってもらえるレベルに研究を深めてください。

③ 1学年「長野高校生になりましたか？」

登校できるようになって、ほぼ2カ月。校長として1年生の皆さんに伝えたいことは、「長野高校生になりましたか？」という事。通常であれば、ライフステージの変化、つまり中学から高校に入学する、異なった環境で皆さんは変化、言い換えると成長を促されるはず。例年であれば、入学して班活・勉強も頑張るという気持ちで臨む高校生活、しかし、班活も本格的に始まり、その強度も中学校では経験したことがないレベル、さらに学習も経験したことの無いレベル。中学校で優秀だった生徒の皆さんが集まってくるわけなので、その中で、自分としてその難局にどう立ち向かうか、ということをお皆さん自身が答えを出していく過程があって、その過程こそが高校生になるという事。例えば、行事で言うと、応援練習、駅伝、クラスマッチ、金鷄祭、班活でいうと入部、地区大会、県大会、3年生引退、という通過儀礼（民俗学ではイニシエーションと呼ぶ）の多くを経験せずに来てしまった。これは致し方ないので、皆さんのせいではないが、校長としては心配しています。

1回目のテスト、たぶん、先生たちは休校期間を考慮して、例年よりもかなり優しいテストを作り、本来の範囲より狭い範囲でテストをしたのではないかと考えています。（何人かの先生が頷いていました。）多分、これから学習面や班活等も、皆さんの想像する以上のレベルで皆さんに降りかかってくる。その時に壁にぶち当たるかもしれない。悩むかもしれない。その悩みや心配こそが、高校生になるという壁かもしれないね。

中には「先生たちや親の期待に応えられない自分は情けない」「自分はこんなはずじゃない」と思う人がいるかもしれないけれど、先生たちは「成績が悪いからといって、その人の人格がだめだ」とは思っていないし、「期待に応えられなくても」先生たちは、それで皆さんがだめな生徒だ、何て絶対に思っていない。そのことは安心していてください。

でも、皆さんのチャレンジする大学入試というは、相手は50万人以上いる全国の高校3年生と浪人生である、という事は変えようもない事実。高校受験みたいに3年生になったら頑張ろう、では間に合わないことは言うまでもありません。相手は例えば小学校から塾や予備校に通っていた人、中高一貫校、英語がペラペラな海外からの帰国子女等です。皆さんがこの後、どう過ごすかは皆さんの人生の選択となることだけは、しっかりとお伝えしておきます。

（生徒の皆さんは、この学校長だよりを読んだあと、保護者の方に渡してください）